

2026年6月10日 全5頁

中国：物価高をピッグサイクルが救う？

農作物安全保障、通貨価値安定に不可欠なピッグサイクルの平滑化

調査本部 主席研究員 齋藤 尚登

[要約]

- 中国国家統計局によると、2026年5月の消費者物価指数は前年同月比+1.2%（以下、断りのない限り変化率は前年同月比）となり、4月と同じ上昇率であった。2026年2月末以降の中東情勢緊迫化の影響が懸念されるが、これまでのところ消費者物価への影響は限定的だ。工業製品出荷価格の内訳を見ると、川上から川下に向かうにつれて価格転嫁が限定的になっている。供給過剰による価格競争が厳しい中国では、最終製品への価格転嫁が難しくなっている可能性がある。
- もうひとつ忘れてはならないのは「ピッグサイクル」が下落局面にあることだ。豚肉の消費者物価指数構成ウエイトは1.9%程度であるが、価格変動は極めて大きく、物価全体への影響は軽視できない。2026年5月の豚肉価格は▲16.1%となり、消費者物価全体を0.3%pt押し下げた。
- 中国政府が豚肉の供給と価格の安定化に躍起になるのは、それが農産物の安全保障や、通貨価値安定の観点から重要であるためだ。通貨価値安定に関連して、中国政府が毎年の全国人民代表大会（全人代＝日本の国会に相当）で目標に掲げる物価目標は、コア物価ではなく総合物価である。豚肉価格のボラティリティの高さが消費者物価に大きな影響を与え、それが政府物価目標達成の可否や中国人民銀行の金融政策に影響を与えかねないということだ。
- 足元で「ピッグサイクル」は下落局面にあり、原油高などによる物価上昇圧力を一部緩和している。だからといってそれを「是」とすることはできない。豚肉価格の下落（豚肉の供給過剰）を放置すれば、次の価格上昇（供給減少）局面のボラティリティが一段と大きくなり、物価の安定や農産物の安全保障を脅かすことになるからだ。

2026年5月の消費者物価は前年比+1.2%、豚肉価格が0.3%pt押し下げ

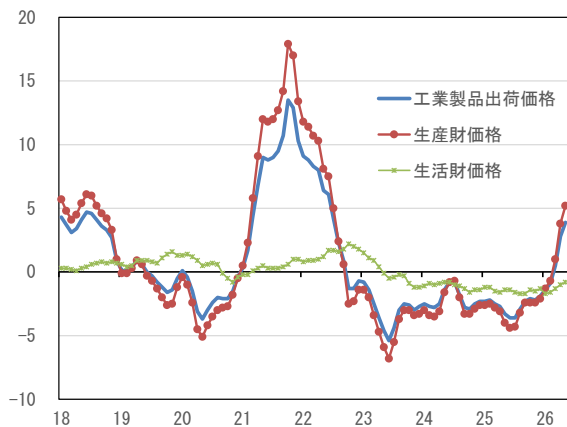
中国国家统计局によると、2026年5月の消費者物価指数は前年同月比+1.2%（以下、断りのない限り変化率は前年同月比）となり、4月と同じ上昇率であった。2023年2月から2026年1月にかけては▲1.0%～+1.0%という低位での推移が続いていたが、ここへきて若干ながら上昇率は拡大傾向にある。とはいえ、2026年の政府目標である「2.0%前後」を下回り、物価抑制策が必要とされているわけではない。

2026年2月末以降の中東情勢緊迫化の影響が懸念されるが、これまでのところ消費者物価への影響は限定的だ。5月の卸売物価（工業製品出荷価格）指数は+3.9%となり、3年6カ月ぶりに上昇に転じた3月の+0.5%、4月の+2.8%から加速した。工業製品出荷価格指数は、生産財と生活財に分けられ、前者の生産財価格指数は3月の+1.0%から4月は+3.8%、5月は+5.2%に上昇加速となった。5月の内訳は、採掘工業品が+15.8%、原材料工業品は+9.2%、加工工業品は+2.3%と、川上から川下に向かうにつれて価格転嫁が限定的になっている（図表1、図表2）。

一方、2026年5月の生活財価格指数は▲0.8%となり、下落が続いた。生産財価格の上昇が生活財価格に波及するにはタイムラグがあるとみられるが、供給過剰による価格競争が厳しい中国では、最終製品への価格転嫁が難しくなっている可能性がある。

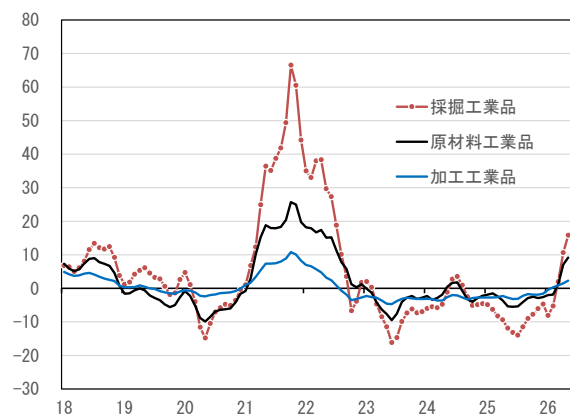
消費者物価の上昇が限定的である理由として、もうひとつ忘れてはならないのは後述する「ピッグサイクル」が下落局面にあることだ。豚肉の消費者物価指数構成ウエイトは1.9%程度であるが、価格変動は極めて大きく、物価全体への影響は軽視できない。2026年5月の豚肉価格は▲16.1%となり、消費者物価全体を0.3%pt押し下げた。これがなければ5月の消費者物価指数は+1.5%となっていた計算だ。

図表1 工業製品出荷価格（生産財、生活財）の推移（前年同月比）（単位：%）



（出所）中国国家统计局より大和総研作成

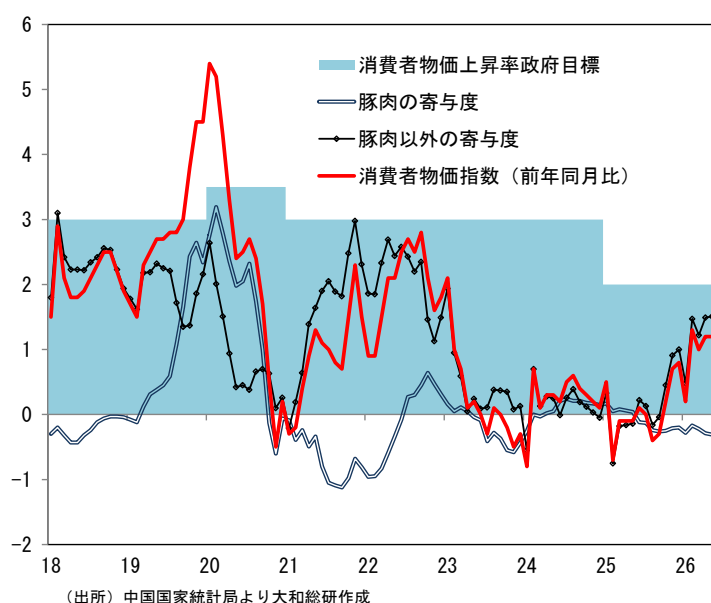
図表2 生産財価格（採掘・原材料・加工工業品）の推移（前年同月比）（単位：%）



（出所）中国国家统计局より大和総研作成

統計が入手可能な 2005 年 1 月以降のデータを紐解くと、豚肉価格が最も上昇したのは 2020 年 2 月の +135.2% であり、+5.2% となった消費者物価を 3.2%pt 押し上げた。豚肉価格が ±0.0% であったら当時の消費者物価は +2.0% にとどまっていたことになる。2020 年 2 月といえば新型コロナウイルスの影響を気にする向きもあるだろうが、豚肉価格の上昇は 2019 年 3 月から始まり、コロナ禍の前から豚肉価格は高騰していた。反対に、豚肉価格が最も下落したのは 2021 年 9 月の ▲46.9% であり、+0.7% となった消費者物価を 1.1%pt 押し下げた。豚肉価格が ±0.0% であった場合、消費者物価は +1.8% になっていた計算だ。

図表 3 消費者物価指数（前年同月比）と豚肉・豚肉以外の上昇・下落率寄与度、消費者物価上昇率政府目標（単位：%、%pt）



ピッグサイクルの平滑化に向けて様々な措置を講じてきたが、課題は残る

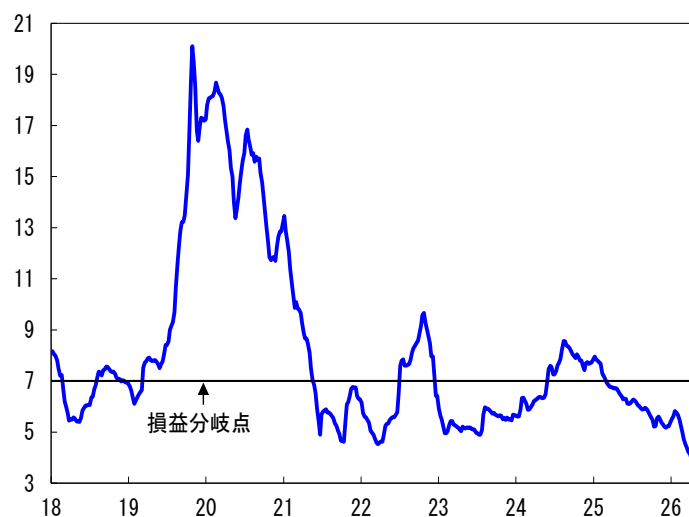
上記のような大きな価格変動は、主に供給の増減によってもたらされる。中国政府は豚肉の供給と価格の安定化に向けて、様々な措置を講じてきたが、これまでのところ効果は限定的だ。

中国国家発展改革委員会によると、豚肉と飼料の価格比は、7（豚肉）：1（飼料）が養豚業者の損益分岐点であり、これを上回るほど利益が増加し、下回るほど赤字が増加するとされる（次頁図表 4）。価格比が 7 を超えて上昇するとの期待が高まると、養豚への新規参入が増えたり、既存業者が繁殖用母豚を増やしたりして、およそ 1 年後に豚肉の供給が増える。反対に、供給が需要を上回れば価格が下落し、損益分岐点を下回る懸念が高まると、規模を縮小したり、廃業したりする養豚業者が増加する。これによって供給が需要を下回るようになると今度は価格が上昇する。これがいわゆる「ピッグサイクル」と呼ばれるものである。

筆者はちょうど10年前に「[中国：豚肉価格上昇と環境保護強化](#)」（大和総研レポート、2016年6月20日）というレポートを執筆したが、2019年～2021年にかけてこのピッグサイクルがむしろ増幅されたのは既述した通りである。

こうした中で、国家発展改革委員会は2021年6月に「政府の豚肉備蓄調整メカニズムの改善と豚肉市場の供給・価格安定のための活動計画」を発表した。これは豚肉の供給と価格の安定化を図り、ピッグサイクルの平滑化を目指したものである。具体的には、①毎週発表される豚肉と飼料の価格比が養豚業者の損益分岐点である7:1を大きく下回ったり、繁殖用母豚の飼育頭数が一定以上減少したりする場合に、豚肉の臨時備蓄を開始・強化して、豚肉価格の安定化（適度な上昇）を図り、②反対に豚肉と飼料の価格比が10:1を超えたり、豚肉価格が大きく上昇したりした場合に豚肉の備蓄を放出して、価格の安定化（適度な下落）を図るとしている（図表5）。

図表4 豚肉と飼料の価格比（週次データ）（単位：倍）



（出所）中国国家発展改革委員会より大和総研作成

図表5 政府の豚肉備蓄調整メカニズムの改善と豚肉市場の供給・価格安定のための活動計画

豚肉価格	警報レベル	豚肉価格と飼料の価格比	繁殖用母豚の飼育頭数	全国36都市の豚肉小売価格	冷凍豚肉・生きた豚の備蓄
下落	3級警報	6:1未満			
下落	2級警報	3週連続で5:1~6:1	単月で前年同月比5%減、もしくは連続する3カ月で5%減~10%減		状況に応じて臨時備蓄を開始
下落	1級警報	5:1未満	単月で前年同月比10%減、もしくは連続する3カ月で10%超減		臨時備蓄を全面的に開始
上昇	3級警報	9:1超			
上昇	2級警報	2週連続で10:1~12:1		前年同週比+30%~+40%	備蓄放出を開始
上昇	1級警報	12:1超		前年同週比+40%超	備蓄放出を強化

（出所）中国国家発展改革委員会「政府の豚肉備蓄調整メカニズムの改善と豚肉市場の供給・価格安定のための活動計画」（2021年6月）より大和総研作成

さらに、中国農業農村部は2026年5月14日に、『『豚肉生産能力総合調整実施方法（2026年改訂版）』の通知』を発出した。同通知では、繁殖用母豚の飼育頭数をターゲットとし、2026年は3,750万頭を基準に安定させるとした。具体的には、①繁殖用母豚の飼育頭数3,750万頭を100%として、92%以上～103%以内を正常範囲とする、②103%超～106%以内、88%以上～92%未満を生産能力の大幅変動とみなし、繁殖用母豚の飼育頭数の調整を行う、③繁殖用母豚の飼育頭数が、ターゲットの88%未満、106%超となった場合はさらに強力な措置を講じるとしている。

一般に、繁殖用母豚の補充から交配・出産・肥育には12カ月程度が必要とされる。豚肉と飼料の価格比をターゲットにする場合、対応は後手に回ることになるが、繁殖用母豚の飼育頭数をターゲットとすることで、より早期の対応が可能になる点は改善点である。ただし、上記通知では、繁殖用母豚の飼育頭数が基準を大きく上回る局面では抑制を、大きく下回る局面では補充を促すといっているにすぎず、どの程度の効果があるか、今後の動向を注視する必要があるだろう。

農産物安全保障、通貨価値安定化に不可欠な「ピッグサイクル」の平滑化

中国政府が豚肉の供給と価格の安定化に躍起になるのは、それが農産物の安全保障や、通貨価値安定の観点から重要であるためだ。

中国の農産物安全保障で重視されているのは、穀物、綿、油、糖、肉類である。豚肉について、国内供給が不足すれば、輸入を増やせばよいとの考えもあるだろうが、中国は豚肉の世界最大の生産国であり、事はそう簡単ではない。FAO（Food and Agriculture Organization、国際連合食糧農業機関）によると、2024年の中国の豚肉生産量は5,706万トンで世界シェアは45.5%に達した。ちなみに、第2位は米国（シェア10.1%）、第3位はブラジル（同4.3%）であり、中国の豚肉生産の1割はブラジル1国の生産量以上に相当することになる。安易に輸入を増やせるわけではない。

通貨価値安定に関連して、中国政府が毎年、全国人民代表大会（全人代＝日本の国会に相当）で目標に掲げる消費者物価上昇率目標は、コア物価ではなく総合物価である。そして、中国人民銀行が通貨価値安定のために重視しているのも総合物価である。豚肉価格のボラティリティの高さが消費者物価に大きな影響を与え、それが政府物価目標達成の可否や中国人民銀行の金融政策に影響を与えかねないということだ。

足元で「ピッグサイクル」は下落局面にあり、原油高などによる物価上昇圧力を一部緩和している。だからといってそれを「是」とすることはできない。豚肉価格の下落（豚肉の供給過剰）を放置すれば、次の価格上昇（供給減少）局面のボラティリティが一段と大きくなり、物価の安定や農産物の安全保障を脅かすことになるからだ。今後の動向に注目したい。